

圏外のアンテナ

[チューリップの謎]の巻

先日、都内のお花屋さんをのぞくと、啓翁桜（ケイオウザクラ）、水仙、スイトピー、アネモネ、ゴールドクラッカー、そして色とりどりのチューリップが咲き誇っていた。近づいて匂いをかいでいるだけで、胸の中の春が大きくふくらんだ。この時期の花屋さんほど、春がフライングしている場所はないようだ。

チューリップといえば、わたしには以前から気になっている謎がある。それはなぜ、子どもはチューリップの絵ばかり描くのだろうか？ということである。幼稚園や保育園の壁は、チューリップが描かれた画用紙でいっぱいになっていたイメージがあるのだけれど、今も同じだろうか。

先日、幼稚園で働いている友人と話す機会があったので尋ねてみると、今でも子どもが描くお花の9割以上がチューリップだという。

「いいところに気がついたね」と、友人は笑い出した。

「チューリップって、便利なんだな。名札にちょうどいい形なのよ」うん、たしかにチューリップの形をした名札の記憶がある。

「それに、折り方が簡単なの。年少の子でも、チューリップなら楽々折れる」ははーん。

「そうそう。これが一番かな。歌の影響！」 咲いた咲いたの歌？

「そう。元気よくあの歌を歌ってから、さあ、絵を描きましょう！ ってなるから、子どもたちは自然にチューリップの絵を描いちゃうって寸法」へ、そうゆうこと？

友人はあっけらかんと笑った。現場の声によるあっけない幕切れ……。長年の謎は、いとも簡単に答え合わせされてしまった。

今年も、チューリップの季節が、雪の中から身をもたげはじめている。

でもね、園児たちよ、きれいなお花はチューリップだけではありませんぞ！

=2022年2月25日掲載=



花屋の店先には、変わった形のチューリップが並んでいた